

がんばろう！日本、がんばろう！行方。

3月11日14時46分、東日本大震災発生。行方市でも震度6弱を観測し、かつて体験したことのない大きな揺れに誰もが恐怖を感じました。16時、市では災害対策本部を設置し、市内の被害状況の把握、避難所の確保、道路、水道、下水道などの復旧を開始。当日は避難所に約500人の方が自主的に避難。余震に不安を感じながら一夜を明かしました。

翌朝になっても、電気も水も使えず、電話もかかりにくい状況が続きました。市役所の非常用電話には市外の方から行方市に住む家族や親戚の安否を心配する電話が鳴り響きました。徐々に被害の概要が明らかになる中、市内では協力の輪が広がっていききました。『自宅の井戸水を使って』と

市役所にわざわざ連絡をくれた方がいました。『食材があるから避難所の食事に協力したい』と申し出てくれた飲食店。自らも被災しているにもかかわらず、物資を届けにくれた事業所。自主的に炊き出しを行っていた地区やお年寄りの見回りをした地区など、市内あちこちでお互いに助け合いが行われました。支援の手は遠く北九州市や広島市、西東京市などからも寄せられました。地域の力が活かされ、助け合いが行方市、そして日本中で広がっています。

下水道、施設などもいたるところでまだ震災の影響が出ています。大きな不安と不便さがある中での生活。でも、このような時こそ思いやりの心をもつことが大切なのではないのでしょうか。今回の震災を受けて海外では日本人の冷静でモラルある行動に賞賛の声が上がっているそうです。そして震災時にも発揮された行方市の地域力。



↑広島市、北九州市から給水車が駆けつけてくれたほか、消防団の方からもたくさんの協力をいただきました



↑自民党額賀衆議院議員と伊藤市長が被災現場を視察。



↑橋本知事に風評被害などの現状を説明するJ Aなめがた中川組合長と伊藤市長。行方産のさつまいもを試食。



↑民主党岡田幹事長に対し、風評被害の防止や補償、農産物出荷自粛解除などを要望しました。